



令和4年度 学校便り 特別号  
 加古川市立平荘小学校  
 令和4年10月4日  
 ※カラー版は本校HPをご覧ください

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

今年度、4月19日に行われた「全国学力・学習状況調査」では、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、「国語」「算数（数学）」「理科」の学習状況と児童・生徒の学校や家庭での生活実態についての調査が行われました。

今回の調査結果は、児童の学力に限られた部分ではありますが、届いた結果を基に本校の現状を分析してまとめましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせいたします。



学力調査では、平荘小学校の児童の学力について、以下のような結果が見られました。

### 国語

#### ☆概ね力がついていること

- ・話し言葉と書き言葉の違いを理解すること
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えること
- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること



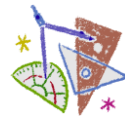
#### ☆これから力をつけていきたいこと

- ・いくつかの条件を満たしながら自分の考えをまとめること（記述問題）
- ・文章全体の構成に着目して文や文章を整えること（文章構成の理解）
- ・漢字を文の中で正しく使うこと

### 算数

#### ☆概ね力がついていること

- ・目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ることができる（データの活用）
- ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる（データの活用）



#### ☆これから力をつけていきたいこと

- ・日常生活の問題を解決するために、目的に合った数の処理の仕方を考えられること（図形）
- ・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解すること（変化と関係）
- ・図形の意味や性質を基に、図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方について考察できるようにすること（図形）

### 理科

#### ☆概ね力がついていること

- ・メスシリンダーという器具を理解していること
- ・問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録すること
- ・観察などで得られた結果を、分析して解釈し、自分の考えをもつことができること

### 理科

#### ☆これから力をつけていきたいこと

- ・観察で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつこと
- ・矛盾が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつこと

### 生活・学習の状況

生活実態調査は、「児童質問紙」として全69項目の質問によって行われ、全ての項目の回答結果について考察しました。その中で特徴的な項目については以下ようになります。

#### ＜自尊感情に関わる項目＞

- ・「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童…約92%
- ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童…約88%

上の結果から、平荘小学校の児童は、概ね自尊感情が育っていることがうかがえます。今後も、子どもたちが自分の夢に向かって成長していけるように、学校と家庭、地域が連携して、地域総がかりの教育活動を進めたいと思います。

#### ＜人権意識に関わる項目＞

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童…100%

全児童が、「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答したことから、いじめをゆるさないという児童の意識がうかがえます。今年度、命の大切さを考えるために、「命の一本桜プロジェクト」「はるかひまわり絆プロジェクト」に取り組んでいます。全校児童が一人ひとりの人権を大切に、「いじめは許さない！」という思いを一層もてるように引き続き取り組みます。

#### ＜学習習慣に関わる項目＞

- ・「学習が好き」と回答した児童…国語 約52%、算数 約64%、理科 約76%
- ・「家で、自分で計画を立てて学習している」と回答した児童…約56%
- ・「1日当たり1時間以上家庭学習（学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む）をしている」と回答した児童…月～金 約36%、土～日 約20%

学習習慣について「予習・復習に取り組む児童が少ない」、「毎日1時間以上家庭学習をする児童が少ない」という結果でした。これは全国や県の平均よりも低い数字です。自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤する自己調整力を育て、家庭学習の質と量をさらに高めていけるように、学校としても努力していきます。

今回調査を実施した3教科全てで、全国・県の平均を上回る結果でした。このことから、基礎的な内容については概ね力がついているといえます。しかし、国語の「条件を満たしながら記述すること」や算数の「目的に合った数の処理をすること」、理科の「矛盾が生じた場合に問題解決していくこと」など、これから身に付けていきたい力も明らかになりました。

学校では、引き続き「できる学力」（知識・理解）とともに、「わかる学力」（思考・判断・表現）を身に付けることを目指して授業改善に取り組んでいきます。協同的探究学習を通して、児童の主体的な学習への取り組みをさらに追及し、思考力・判断力・表現力を伸ばしていきます。

今後とも、学校と家庭とが連携しながら、さらなる充実を図り、学力向上を目指していきたいと思っておりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。